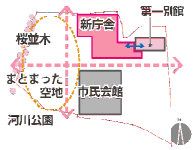
# テーマ1.敷地全体の一体性創出

これまで育ててこられたアクティビティ、それを支えてきた既存施設を最大限活かす計画とすることが重要です。

第一別館側から桜並木をのぞむイメージ

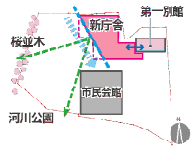
## 1-01 敷地のポテンシャルを活かす庁舎形態

### 東西、南北に視線が通る庁舎配置



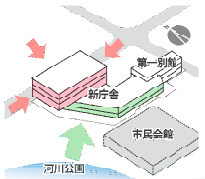

- 北側道路から南側河川公園、東側道路から桜並木がのぞめる北西側に配置し、第一別館と接続します。
- 敷地西側にはまとまった空地が確保できます。

### 開かれた庁舎イメージの創出



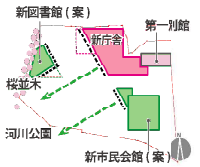

- 低層部分のボリュームをカットし、当面活用される市民会館へ国道からの視認性、正面性を確保します。
- 庁舎が河川公園側に対して　文字の長いフロンテ　ジをもつことができます。

### 全方位型庁舎づくり




▲建物構成のイメージ

- 四方から眺められる高層部分は国道に正対する配置とし、都市景観との調和を図ります。
- 河川側にファサ　ドを向けた低層部が中、近景の顔となり、ランドメケープを特徴づけます。




▲将来市民会館建て替え時のイメージ

- 国道から敷地中央へと導く、角度のある低層部が、今後計画される図書館や市民会館のデザインコードとなり、群造形としての一体感が創出されることを想定します。

## 1-02 美祢モールをスパイン（背骨）としたまちづくり

- 計画地はさまざまな特徴あるエリアに囲まれ、にぎわいを生み出す恵まれた立地特性を有しています。
- 計画地内を北西～南東に通りぬける「美祢モール」を設けます。
- 「美祢モール」は周辺のアクティビティを引き込み、つなぐ、にぎわいのスパイン（背骨）となります。
- 「美祢モール」は庁舎低層部に沿うように庁舎内ロビーと遊歩道、さらに車道が一体となった人と車の新しい関係を生みだす空間です。
- 「美祢モール」には計画地内のすべての施設が顔を向ける構成となります。

▲広域動線のイメージ

周囲に広がる自然に抱かれる庁舎イメージ

## 1-03 地域の材料、技術の掘り起こし

- 美祢市の財産である技術や人材、材料を駆使し、愛着を感じて頂ける庁舎づくりを行います。
- 地域材の調査を「匠マップ」にまとめ、庁舎設計に活かします。

▲「匠マップ」イメージ（弊社実績）

### 活用例

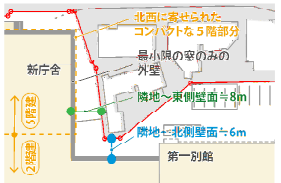
| | |
|---|---|
| 蓄熱体 | - 外断熱工法の低層部躯体はRC造とし、美祢産材を活用します。 |
| 外装材 | - 「霞」と名付けられた灰褐色の大理石など美祢を特徴づける大理石を砕石化したスタッコ吹付を検討します。 |
| 内装材・家具 | - 美秋材を地域で加工できる形状で使用します。 |
| 建具 | - 直接の雨掛かりとならない低層部建具には美秋材の木製建具を採用します。 |
| 地熱技術 | - 市内で開発された技術を積極的に活用します（テーマ5-02に詳述）。 |
| 照明器具 | - 美秋材や美祢市の歴史を彩る銅などを用いた器具を光環境デザイナーと地元職人のコラボレーションにより制作します。 |
| 吸音材 | - 音環境デザイナーによる美秋材調音ルーバーを提案します。 |

美祢でなければならない内外装イメージ

## 1-04 周辺環境に配慮した庁舎形態

### 低層部ボリュームの縮小

- ５層となるボリュームを北西側へまとめ低層部は２階建てとします。
- 構造の工夫により、第一別館と階高を合わせたコンパクトな２層とします。
- 隣接地側の１，２階は窓を最小限とし、プライバシーに配慮します。




▲隣地へ配慮した平面イメージ